



多様性が生み出した 「アメリカ音楽」の魅力



「ジャズ」

アメリカ系移民とヨーロッパ系移民が持ち込んだ音楽に、さまざまな国やジャンルの音楽の要素が混じり合った「ジャズ」は、アメリカ音楽の多様性を大いに感じるジャンルです。

人種のるつぼニューオリンズで生まれた「ジャズ」

ジャズは、1900年代初頭にアメリカのルイジアナ州ニューオリンズで生まれ、1920年代頃から発展してきた音楽です。18、19世紀と港湾都市として栄えていたニューオリンズには、アメリカ人やイギリス人、先住民、奴隷として連れてこられたアフリカ系アメリカ人、入植者であったフランス人やスペイン人などさまざまな人種が暮らしていました。当然ながら音楽も、ラグタイム、ブルース、スピリチュアル、マーチ、民謡、ダンスミュージックなど、多国籍で多岐にわたるジャンルが存在していました。また、ニューオリンズの黒人法は黒人に諸々の権利を認めており、ほかの都市に比べて人種差別が緩やかで、音楽的にも自由な交流があったようです。それが、ジャズが発展した大きな理由と言えるようです。

ジャズの音楽的な特徴と種類

ジャズという音楽は、アフリカ系アメリカ人の持つリズムに西洋音楽のハーモニーが融合し、「即興演奏」、「バックビート※1」、「スウィング※2」、「ブルー・ノート・スケール※3」、「コールアンドレスポンス※4」といった要素が加わったものです。ジャズの演奏には、ピアノ、ベース、ドラム、トランペット、サクソス、ギターといった楽器を使用し、ボーカルがある曲も少なくありません。

1920年代以降からアメリカでジャズが時代の流行の音楽となり、その後世界に発展していきました。流行の広まりに伴い、その国や地域の音楽文化の影響を受け続けたことから、スウィングジャズ、モダンジャズ、ラテンジャズ、ジャズモード、ジャズファンク、コンテンポラリージャズ、エレクトリックジャズといった多種多様なスタイルのジャズが生まれ、今でも多くのスタイルが存在しています。

※1 4拍子の1拍目と3拍目におくアクセントを、2拍目と4拍目にずらすリズム ※2 ふたつの連続した音符のうち、初めの音符の長さを長めにとり、ふたつめの音符を短くするなどの特徴があるリズム ※3 メジャースケールに3音と5音、7音を半音下げた音を加えた音階 ※4 複数の演奏者または歌手が前者の呼びかけに後者が応答する形でフレーズを継承して演奏・歌唱する楽式



ジャズのミュージシャン

ルイ・アームストロング(1901 - 1971)

ニューオリンズ生まれのアフリカ系アメリカ人のルイ・アームストロングは、凄腕のトランペット奏者であり、ジャズ・ヴォーカルの開祖的なシンガーでもあります。20世紀を代表するジャズマンとしてジャズファン以外にも広く知られており、特徴的なダミ声と明るいキャラクターが愛され、「サッチモ」という愛称で親しまれています。

マイルス・デイヴィス(1926-1991)

独特な音色やアドリブ奏法の追究、エレクトロニックサウンドの導入など、1950年代から一貫してジャズ界をリードしたマイルス・デイヴィスは、トランペッターそしてバンドリーダーとして、ジャズ史上最も重要な人物のうちの一人と言われています。彼を「モダン・ジャズの帝王」と呼ぶ日本のジャズファンやジャズ評論家も少なくありません。



ジャズの名曲

What a Wonderful World(この素晴らしき世界)

ルイ・アームストロングは、数々の名曲を生み出していますが、中でも最も有名な曲が「What a Wonderful World」です。1968年のリリース当初は、アメリカではあまり受けなかったようですが、イギリスでの評価が高く、全英チャート1位を記録しました。1987年にアメリカ映画『グッドモーニング、ベトナム』の劇中歌に起用されリバイバルヒットとなり、日本でもテレビCMや映画にたびたび起用されています。

My Favorite Things

原曲は、ミュージカル映画の名作「サウンド・オブ・ミュージック」の曲ですが、ジャズサクソスの名手であるジョン・コルトレーンがカバーしたことで、ジャズの定番曲となっています。ソプラノサクソスの甘くメロディアスな音色が印象的な1曲です。日本では、「そうだ。京都へ行こう」のキャッチコピーでおなじみのJRのテレビCMで使われており、「ああ!それなら知ってる!」という人も多いのではないのでしょうか。



知識

「ビバップ革命」

1940年代初期に、ジャズ史最大のできごとと言われる「ビバップ革命」が起きた。「ビバップ」というのは、「自由度の高い即興演奏(アドリブやソロ)」、少人数編成、「コード進行に基づく演奏」を大きな特徴とするジャズのスタイルです。

ビバップは、即興演奏が好きなジャズマンたちが、マンネリ化したスウィング・ジャズに飽き、ライブハウスなどの閉店後にジャム・セッションをやることで生まれました。

ビバップの登場は、それまで「大衆音楽・娯楽音楽」とみられていた黒人音楽を、「芸術音楽」と認識させる契機となりました。